

BE WILD

2009.04 活動報告

日本ボーイスカウト阿見第1団
<http://www.bs-ami.net>



● 村田ベンチャー隊長、日本連盟副リーダートレーナー任命



からだでおぼえたものは、はなれない

～サトウハチロー～

手で覚える
足でさとる
目にやきつける
胸にしみこます

ボーイスカウトの仕事は
すべてこれだ これなんだ

水くみひとつにも
上手下手がある
米をとぐのも
めしをたくのも
玉ねぎをきざむのも
遊び半分では
出来ない 出来ない

なれない仕事で
涙ぐむと
母の瞳が浮かぶ

力のいる仕事で
へばると
父の笑顔が見える

われとわが身を
はげましても
情けなさがあふれてきて
あたりの風景に
もやをかける

のりこえろ のりこえろ
からだでおぼえたものは
からだからはなれない
はなれない

手で覚える
足でさとる
目にやきつける
胸にしみこます

満足に
つとめを果たした夜の
キャンプファイヤーの火はすばらしい
静かにじっとながめっていると
さわやかな
ほんとうに さわやかな虫の音が
首にしみこむ 背中にしみとおる



※この詩は、NHK-TV「十代は君たちのもの」で放送されたものです。この作品は、ボーイスカウトの活動を見て作詩されたものです。

BVS 隊の 4 月の活動

●ビーバースカウト隊

幼稚園年長～小2：8月

● さあ、がんばるぞ!!

(缶ぽっくり作り)

4月19日

空き缶、牛乳パック、竹を使って「ぽっくり」を作りました。

「ぽっくり」とは本来は木靴（ぽくり）という下駄の一種ですが、今回は空き缶や竹を使った「缶ぽっくり」と呼ばれるものを作りました。簡単に言うと竹馬の缶バージョンで、缶を使ってぽっくりぽっくりと歩くことが語源になっています。家庭から出た空き缶、牛乳パックと紐さえあれば作れ、そして竹

馬に比べると全体的に簡単に歩け、バランス感覚を鍛えるのに効果的です。牛乳パックを使ったものでは、強度を調整するため段ボールを丸めて詰めました。なかなか丈夫にできました。

竹を使った場合は、節を残すことがポイントで、節がないと強度が弱く、すぐ割れてしまいました。

最後に、みんなで缶ぽっくりに乗って競争。最初はうまく歩けなかったスカウトも、練習するうちに上手に歩けるようになりました。



にしました。上手くできたスカウトもいましたが、中には、雑に作っていたスカウトもいましたよ。

今回の活動に参加していただいた若泉団員長に、みんなの絵を渡しました。たくさんのお友達がスカウト祭に集まってくれるといいな。

新しく体験で参加したお友達も、元気に活動してくれました。他のスカウト達より、はきはきしていたような感じがします。みんなも、負けないように元気を出して行こう。



● みんなのなかまを あつめよう

4月26日

6月のスカウト祭のポスター作りと、キャンプ場ビーバーエリアの落ち葉履きをやりました。

ポスターは、みんなが描いた絵を元に、新聞広告を細かく破って、貼り絵

CS 隊の 4 月の活動

●カブスカウト隊

小2：9月～小5：8月

●サイクリング・りんりん

4月26日

4月のカブ隊は12日(日)にサイクリングを行いました。

当日はスカウトの参加率も高く、保護者も数名参加され、普段乗っている自転車、ピカピカの新車、それぞれのマイ・バイクで集合しました。天候も薄曇りの絶好のサイクリング日和となり、霞ヶ浦を渡るさわやかな風を全身に受けて、気持ちよい自転車での活動となりました。

コースは、阿見町の廻戸近隣公園から美浦村の陸平貝塚公園までの、往復約40km、霞ヶ浦沿いのほぼ平坦で舗装された、正にサイクリングには最適

なコースだったと思います。

コースの途中には大きな菜の花畑や、ラジコンの飛行場があったり、長い道中、景色のあまり変わらないなかでも、新しい発見がありました。

折り返し地点の陸平貝塚公園での昼食では、キャンプ係さんに「春キャベツとベーコンのスープ」を用意してもらい、ここでも春の訪れを「味覚」で確認しました。

午後の活動は、ロープを使った輪投げゲームを、活動に参加した保護者の方も含め、全員で行い、かなり盛り上がりました。帰り道の途中で、陸平資料館に立ち寄り貝塚の説明を、職員の方から受け、皆、興味しんしんに聞き入っていましたね。

今回、往復同じコースを走りましたが、途中に国道と交わる等の危険箇所が数か所あり、支援していただいた団員さんに、先回りして安全に誘導してもらい、無事に事故もなく隊活動を終了できました。

キャンプ係さん、団員の皆さんには大変お世話になりました。ご協力ありがとうございました。



BS 隊の 4 月の活動

●ボーイスカウト隊

小5：9月～中3：8月

● キャンポリー準備報告会

4月12日

今回は、キャンポリーの準備状況の確認ということで、各班ごとにそれぞれ考えている案を発表してもらいました。

どの班も着実に形が見えてきていたと思います。あとは、この案をちゃんとした形にするために、細かい所をきちんとつめて、ぜひ成功させましょう。



● 読図勉強会

4月28日

今回は、夜間ハイクが延期になったこともあり、読図の勉強会を行いました。本間副長、菊池副長の説明に耳を傾けながら、地図記号、縮尺と距離、方位、コンパスなどについて勉強しました。本番までにコンパス片手に地図をいろいろ見てみましょう。

このGW中に一度、地図を見ながら歩いてみると、いい練習になりますよ。



VS 隊の 4 月の活動

●ベンチャースカウト隊

中3：9月～高3：8月

● 作る側も楽しいんだぜ？

ベンチャー隊は、ボーイ隊が5月の活動として計画している「夜間ハイク」のコース作成を行いました。

4月某日、ベンチャーラリーの挫折をあっさりと乗り越え、その場のノリと勢いで「一筆書き」された町内一周コースを、下見という名の数回もの阿見町内迷走を経て、みごと夜間ハイクのコースが完成したのでした。

「このコースは難しくて、(今のボーイ隊のレベルでは) ちょっとばかりマズイのでは？」と臆病風に吹かれたも

のの、「多少迷子になったほうが根性がつく」と自分達は歩かないからと強気に出たのでした。(←どうもベンチャーラリーで自分たちが出したCP直後のリタイアの意味を理解していない？ように思えてならないのだが・・・)

ボーイ隊時代に厳しい??夜間ハイクを経験したベンチャースカウトたちは、後輩たちにも同じような苦労を味わってほしい様です。(きっと良い意味で)(^_^)

そういえば、去年の夜間ハイクは、満開の桜を名所を巡ったハイクだったなあ。



RS 隊の 4 月の活動

●ローバースカウト隊

高3：9月～25歳

● WB訓練に行ってきます

ローバー隊の某杉澤スカウトは5月に実施されるWB基礎訓練(試行)に参加するために、事前の自己研修を実施しました。団からは1人っきりの参加で不安²なんです。(大丈夫です。中島、村田、小峰の各氏がスタッフでいます)・・・だから不安なんですよ！



● 刃物類（ナイフを含む）の取り扱いについて

以前、小学生・中学生によるナイフを使用しての殺傷事件があったことは記憶に残っているとおりです。

そのとき政府は、少年によるナイフを使用しての凶悪犯罪が連続して発生していることを重視し、再発防止に向けての取り組みやナイフの販売や携帯の規制を強化しようと協議している中で、当時の首相であった橋本龍太郎氏は「自分は、ボーイスカウト時代、ナイフを使ったが、そういうナイフはどのようなのか。まずは正しく使用する自覚が必要だ。この問題は、ナイフの使用を禁止するか、それともきちんと使えるように指導するかだ。」と強調され、「これは果たして禁止という手法で済むのか。単純に結論は出せない。」と、橋本首相は『ナイフ性悪説』に流れがちな議論に一線を画されています。

1954年頃から、飛び出しナイフ等を使った殺人や強盗の凶悪犯罪が多発し、60年代に入って政治家をターゲットとした刃物を使ったテロ事件が相次ぎ、刃物に対する規制強化の世論が高まりました。その中で飛び出しナイフは、刃の長さにかかわらず所持禁止となりました。その後の『ナイフを使わせない』『ナイフを持たせない』等の風潮の中で、ボーイスカウトでは、ナイフを含めた刃物について『正しく使う』『取り扱いの安全に気をつける』『野外活動等で必要な時以外は携帯しない』『携帯するときはリュックサックなどに入れる』等の教育的配慮と指導を続けながら対応して今日に至っております。

スカウト運動では、野外におけるプログラムなどで用途に即した刃物類（ナイフを含む）を道具として使用し

ています。この現実を踏まえて改めてスカウト活動における刃物類の取り扱い、特に所持と携帯についての確認事項を通達しますので、スカウト、指導者、保護者各位に周知下さい。

今後ともあらゆる機会、特にジャンボリーやキャンボリー等の行事を活用して繰り返し刃物類の所持と携帯並びに安全使用や管理の指導に万全の措置を講じられるよう重ねてお願いいたします。

・・・これを受けて、阿見第1団においては次のように「ナイフの取り扱い」を定めました。ここに再度掲載しますのでご確認ください。

● 阿見第1団における「ナイフ」の取り扱い規定（平成4年制定、平成10年一部改定）

<安全上（使用上）の注意>

- 刃物は用途に適した安全な使い方をします。
- カブスカウトの工作等で使用する小刀等についても同様の取り扱いとします。
- 使用上の諸注意については、スカウトのハンドブックや各隊のリーダーの指示に確実に従う。
- 自分以上に他の人への安全について十分な気配りをする。ナイフを手にした腕を伸ばしてぐるり廻した範囲内に人がいる場合は使用しない。
- 刃物の受け渡しについては、安全上の確認を行った上で、それぞれ所定の方法で受け渡す。
- 使用したナイフ等刃物は、そのまま放置しない。決まった方法・状態で置くものとする。
- 使用後は、サヤやケースのあるものは、その中に収納し、所定の場所に保管する。
- 個人のナイフは、活動中は各人が責任を持って保管し、家においては保護者が管理する。班の備品となるものは班長のもと備品管理担当者を決め、保管または管理する。
- 指導者は、ラウンドテーブルなどの機会を通じて、その使用方法や指導方法を修得する。

<刃物の購入>

- スカウト活動に必要なナイフは、指導者を介して購入することを原則とする。（阿見第1団では、ナイフは、その使用指導のために同じ種類のもので用意することとしています）
- ナイフが購入及び所持できるのは、ボーイスカウト以上とする。
- 本人の技術・技能・能力を越えた機能があるものは購入しない（機能、刃の長さ等）。ボーイ隊までは、所定のフォールディング（折りたたみ）ナイフ、シースナイフはベンチャースカウト以上とする。

<刃物の所持・携帯>

- 銃刀法、軽犯罪法、青少年の保護育成条例等に基づく基準を越える物は所持しない（団で指定しているナイフは基準内です）。
- ナイフは、活動で持参の指示がある場合、及びキャンプの時にのみ持参でき、使用できる。
- スカウト活動で刃物を携帯し移動する場合は、リュックサックまたはハバザックなどに安全を確認して納め

る（飛行機を利用するときは、機内への持ち込みとはせず、預ける荷物に入れる）。

- キャンプ場等で、作業のために体に付帯する場合は、革等の丈夫なケースに入れて、ベルトに通し、身体の側面から臀部に位置するように取り付ける。側面から全面方向には取り付けることは禁止する。
- 個人で所有している刃物は、学校等スカウト活動以外には、携帯しない。
- 機会あるごとに、主旨をスカウトや保護者に伝える。

<その他>

- 刃物のメンテナンスについても、指導者は十分な知識と研修を積み、適切な指導を行う。



★阿見第1団推奨ナイフ
「ビクトリノックス、ラックサック NL」